

## 8人制サッカーのルールを学ぼう

### 【今までの変更点】



## コイントスに勝ってもボール(キックオフ)を選べる

今まではトスに勝った場合は前半に攻めるゴールを決める(エンドを選ぶ)

ルールでしたが、キックオフを選んでも OK になりました。

延長戦になった時のキックオフも同じです。トスに勝った場合は前半に攻めるゴールを決めるかボール(キックオフ)を選べます。

## ドロップボールの方法が変更になる

いままでは両チームの選手の間<sup>りょう</sup>に落としてボールが地面に当たったら蹴るという<sup>せんしゅ</sup>方法から、次の方法<sup>あいだ</sup>に変わります。<sup>お</sup>

再開がペナルティエリア内の場合: 守備側ゴールキーパーにドロップする

それ以外の位置では: 最後にボールにプレーしたチームの選手一人にドロップ

する。ドロップされる位置から他の選手は 4m以上離れなければならない。

## 審判にボールが当たって状況が変わったらドロップボールになる

主審や他の審判員にボールが当たり、「ゴールに入った」「攻守が入れ替わった」  
「大きなチャンスとなる攻撃が始まった」場合はアウトオブプレーとなり、

ドロップボールで再開になります。

審判にボールが当たった位置から最後にボールをプレーしたチームの一人に  
ドロップする。

審判にボールが当たってそのままスローイン、ゴールキック、コーナーキックとなった  
場合はドロップボールではなく、その時の再開方法で再開になります。

## フリーキックの壁(3人以上の壁)に攻撃側の選手は入れない

攻撃側チームのフリーキックの時に、守備側チームがゴールを守るために壁を作ることがよくありますね。

この時、3人以上で壁を作った場合は、攻撃側の選手は壁から1m以上離れなければならなくなりました。(前後・左右とも壁から1m離れる)

もし1m以内に近づいたら守備側チームの間接フリーキックになります。



## 守備側のチームによるペナルティエリア内のフリーキックおよびゴールキックについての<sup>へんこう</sup>変更

守備側チームの選手がペナルティエリアからフリーキックを蹴る時や、ゴールキックを行う時、今まではボールがペナルティエリアからボールが出るまでインプレーにならなかったのですが、改正後は蹴られて明らかにボールが動いたらインプレーになります。

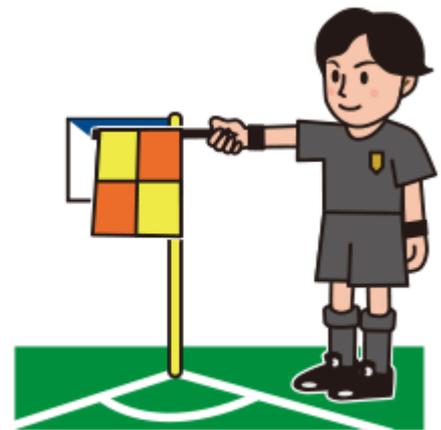
ボールがペナルティエリアを出る必要はありません。

ただし、相手の選手に対して次の2つのルールは変わりません。

1. ゴールキックの時はペナルティエリアの外にいる。
2. フリーキックの時はペナルティエリアの外かつボールから7m離れる。

※注意しなければならないことは、相手チームの選手がペナルティエリアを出る前にプレーを再開することは、相手がそこに残っていることを理解して再開したことになり、相手チームがボールを奪いに来てもプレーは続けられます。

※相手チームの選手が意図してペナルティエリア内でとどまりプレーの再開を狙っているケースでは、やり直しとなります。



## 交代する選手がピッチから出る位置が変更になる

8人制の場合、フィールドプレイヤーは自由な交代なので、今までと同様に交代エリアから交代となります。

ゴールキーパーは主審に承認を得て、交代エリアから交代していましたが、

**最も近くの位置からピッチ(=フィールド)を出なければいけません。**

## ハンドの判断基準が明確化される

サッカーでは、ボールが手に当たただけではハンドにならない場合がありますが、その基準がわかりづらかったために今回の改正で明確化されました。

ハンドとして反則になる：



- 手や腕で意図的にボールに触れる。
- 手や腕をボールの方向へ動かし、ボールに触れる。
- 意図的ではなく偶発的(偶然に)であっても 手や腕で相手ゴールに直接得点する、あるいは得点の機会を作る。
- 通常は不自然と考えられる 手や腕を肩より上にあげた状態でボールに触れる。
- 水平であっても(=肩と平行な高さ)、手や腕を伸ばして(=体から離して) 不当に体の幅を大きくする状態でボールに触れる。

---

## ハンドとして反則にならない:

---

- ・上記のような不自然・不当ではない状態の時(体の近くに手や腕がある)に、避けられないような状態でボールが手や腕に当たる。
- ・自分の足や体・頭に当たって跳ね返ったボールが手や腕に触れる。
- ・近くの他の選手の足や体・頭に当たって跳ね返ってきたボールが手や腕に触れる。
- ・スライディングや倒れた時に、体を支えるため地面と体の間にある手や腕にボールが当たる。



## PKの時、GKは片足をゴールライン上か上方に置く

ゴールキーパーがゴールラインの前後に立つことはできず、ライン上に立つのは変わりません。

片足がゴールライン上もしくは飛んでいる時であればゴールラインの上方にあれば良いということです。

キックされる前にゴールキーパーが早く動き両足をゴールラインから離してセーブした場合は、ゴールキーパーは警告を与えられ、キックのやり直しとなる。

## チーム役員に対して警告や退場できる

今回の改正でチーム役員に対してもイエローカードやレッドカードが提示されま

す。もし役員が複数いて、誰が不正をな行為をしたかわからない場合は立場が一

番上の役員(監督)が罰せられます。

チーム役員とは監督やコーチのことです。



© Can Stock Photo

【選手の皆様へ】

競技規則を正しく理解して、

フェアプレーで最高のプレーを見せてほしいと願っております。